

令和元年度実施 色麻町事務事業評価シート

①	事務事業名		保健衛生総務事業				
	担当課・係名		保健福祉課 保健係				
	予算 科目	会計区分	一般会計	基本計 画体系	大分類	01 健やかに生きるチカラ	
		款	04 衛生費		中分類	02 健康づくりの推進	
		項	01 保健衛生費		小分類	01 保健活動の充実	
目		01 保健衛生総務費	重要推進プロジェクト該当の有無 <input type="checkbox"/>				
②	事業費の推移		H29予算	H29決算	H30予算	H30決算	R1予算
総事業費（千円）			2,220	2,121	932	898	1,132
財源 内訳	国県支出金		368	0	0	0	0
	その他特定財源		60	71	60	88	65
	一般財源		1,792	2,050	872	810	1,067
※H29・H30予算は最終予算額。R1は9月補正後の額。							
③	対象（誰、何を対象にするのか）						
<input type="checkbox"/> 保健福祉センターまつり（全町民） <input type="checkbox"/> 効率的な健康づくり事業の展開（全町民）							
④	目的・意図する成果（どのような成果をもたらしたいのか）						
<input type="checkbox"/> 保健福祉センターまつり <ul style="list-style-type: none"> ・ 保健福祉に関する各事業や関係団体への理解。 ・ 保健福祉センター機能の理解。 ・ 健康福祉に対する関心を持ってもらう。 ・ 保健福祉センターが地域に開かれたものという認識をもってもらう。 							
⑤	事業概要						
<input type="checkbox"/> 保健福祉センターまつり <ul style="list-style-type: none"> ・ 保健福祉センター内各部門の事業紹介 ・ 保健福祉関係各外部団体との共同事業 ・ 健康福祉に対する知識の普及 ・ 健康の維持増進に関する知識の普及 <input type="checkbox"/> 効率的な健康づくり事業の展開 公用車管理、健康管理システム							
⑥	事業を取り巻く状況の変化について						
<input type="checkbox"/> 保健福祉センターまつり 平成24年度より町民秋まつりから分かれて単独で実施とした。町社会福祉協議会と共催して実施。 <input type="checkbox"/> 効率的な健康づくり事業の展開 平成25年度より健康管理システムがクラウド化した 平成28年度 福祉車両購入 平成29年度 訪問車両購入							
⑦	根拠法令等（法律・条例・要綱等）						
⑧	事業の活動指標（事業の活動量を示す数値）						
指標名			H28	H29	H30		
A	保健福祉センターまつりの実施回数	単位：回	実績値	1	1	1	
			目標値	1	1	1	
定義		年に1回					
B		単位：	実績値	0	0	0	
			目標値	0	0	0	
定義							
⑨	事業の成果を測る指標（事業の目的がどの程度達成されたかを示す数値）						
指標名			H28	H29	H30		
A	保健福祉センターまつり参加者数	単位：人	実績値	577	665	734	
			目標値	550	550	550	
定義		当日受付数をカウント					
B		単位：	実績値	0	0	0	
			目標値	0	0	0	
定義							

⑩ 目的妥当性の評価	
ア 町で行うべき事業である（民間や他の機関で実施する可能性）	4
イ 最も適切な方法で行われている	3
ウ 町民ニーズ及び今の社会情勢に合致している	3
評価の説明 保健福祉センターまつりの実施において、町保健福祉課と社会福祉法人色麻町社会福祉協議会との共催で実施している。保健福祉の目的を共有し、係ごとのブースを設け実施している。 ・町や町の主要法人が主催したほうが、参加団体の公平性を保つためにも良いと考える。 ・町民主体の健康普及啓発の活動発表の場として各種団体が参加している。	
点数	10
有効性の評価	
ア 長期的な効果が期待できる	4
イ 目的を達成するために有効な事業である	4
ウ まちの将来像実現に有効な事業である	4
評価の説明 保健福祉センターまつりの実施において、主催内部のみならず外部からの意見等を多く取り入れていく必要がある。	
点数	12
効率性の評価	
ア 経費は適切かつ最低限である	5
イ 他の類似事業等との連携・調整はできている	4
ウ 受益者負担は適正である	5
評価の説明 保健福祉センターまつりの実施において、主催内部のみならず外部からの意見等を多く取り入れていく必要がある。	
点数	14
達成度の評価	
ア 事業の成果指標の目標値に対して実績は上がっている	4
評価の説明 保健福祉センターまつりの実施において、参加者数は年々増加している。	
点数	4

⑪	課長総括評価 新たな参加者の掘り起こし、来ない方へのPRの仕方について検討していく。町民の意見を取り入れた内容としていくこと。
合計点	40
今後の方向性	改善の上継続

⑫	二次評価
今後の方向性	

令和元年度実施 色麻町事務事業評価シート

①	事務事業名		健康増進事業				
	担当課・係名		保健福祉課 保健係				
予算 科目	会計区分	一般会計	基本計 画体系	大分類	01 健やかに生きるチカラ		
	款	04 衛生費		中分類	02 健康づくりの推進		
	項	01 保健衛生費		小分類	01 保健活動の充実		
	目	02 予防費		重要推進プロジェクト該当の有無 <input checked="" type="checkbox"/>			
②	事業費の推移		H29予算	H29決算	H30予算	H30決算	R1予算
	総事業費（千円）		694	579	671	561	711
財源 内訳	国県支出金		200	369	456	456	367
	その他特定財源		15	16	15	17	9
	一般財源		479	194	200	88	335
※H29・H30予算は最終予算額。R1は9月補正後の額。							
③	対象（誰、何を対象にするのか）						
	全町民を対象とした健康増進・食育計画に基づく健康づくりの推進						
④	目的・意図する成果（どのような成果をもたらしたいのか）						
	町民ひとりひとりが健康に対する意識を高め、それぞれに見合った自己管理ができる。町ぐるみで健康づくりに取り組めるよう推進していく。						
⑤	事業概要						
	<ul style="list-style-type: none"> 健康増進・食育推進計画に基づいた健康づくりの啓発普及を図る 計画の進捗管理 健康教育、相談を通じた健康増進に関する正しい知識の普及。情報収集、整理分析による評価。それによる見直し 健康増進食育推進委員会活動への支援 						
⑥	事業を取り巻く状況の変化について						
	平成12年 健康日本21が国で策定 平成19年度色麻町増進計画策定 平成22年度色麻町食育推進計画策定 平成25年度健康日本21第2次計画スタート 第2次宮城21健康プラン策定（宮城県）						
⑦	根拠法令等（法律・条例・要綱等）						
	健康増進法・食育基本法						
⑧	事業の活動指標（事業の活動量を示す数値）						
	指標名			H28	H29	H30	
A	研修会回数	単位：回	実績値	39	40	39	
			目標値	14	40	39	
定義	健康づくり事業開催回数 働き盛り世代への健康教室(昼、夜)8回・生活習慣病予防講演会2回・健康ウォーキング(百笑)2回、健診事後相談会2回、商工会健康セミナー1回						
B	複合検診時 個別相談回数	単位：回	実績値	8	8	8	
			目標値	8	8	8	
定義	複合検診時個別相談実施回数						
⑨	事業の成果を測る指標（事業の目的がどの程度達成されたかを示す数値）						
	指標名			H28	H29	H30	
A	健康づくり事業 参加延べ人数	単位：人	実績値	1,370	597	724	
			目標値	1,823	600	750	
定義	健康づくり事業参加人数 働き盛りの健康教室(昼、夜)127人・生活習慣病予防講演会140人・百笑ウォーキング29人、健診事後相談会411人、商工会健康セミナー17人						
B	複合検診時 個別相談件数	単位：人	実績値	1,209	1,066	1,165	
			目標値	1,100	1,100	1,100	
定義	複合検診時個別相談件数						

⑩ 目的妥当性の評価	
ア 町で行うべき事業である（民間や他の機関で実施する可能性）	4
イ 最も適切な方法で行われている	4
ウ 町民ニーズ及び今の社会情勢に合致している	4
評価の説明 点数 12	町民と町の健康状況を共に考えながら健康づくりについて検討をかさね、町民参加による健康づくりの推進が図られてきている。保健事業の実施については、町民の参加しやすさや、事業参加後の継続についても考慮していく
有効性の評価	
ア 長期的な効果が期待できる	5
イ 目的を達成するために有効な事業である	5
ウ まちの将来像実現に有効な事業である	5
評価の説明 点数 15	町づくりの3本柱の一つである。生活の主体者である町民が自らの健康、地域の健康づくりを考え主体的に行動できるように必要な事業である。
効率性の評価	
ア 経費は適切かつ最低限である	5
イ 他の類似事業等との連携・調整はできている	4
ウ 受益者負担は適正である	4
評価の説明 点数 13	区長会、婦人会、商工会、老人クラブ、民生委員、保健推進員、ヘルスマイト、PTA、生活改善クラブ、穀菜会、加美農、町民の代表からなる健康増進・食育推進委員や、保健推進員・ヘルスマイト等の地区組織等との連携により、健康増進事業を展開している
達成度の評価	
ア 事業の成果指標の目標値に対して実績は上がっている	4
評価の説明 点数 4	夜間に事業開催したり、商工会との連携等により、働き盛り世代の参加を促すような事業を検討していく。より多くの対象者の参加を得るため、保健推進員やヘルスマイト等の地区組織等への働きかけや、保健指導対象者へのダイレクトな働きかけを徹底する。

⑪	課長総括評価	地域住民の声を取り入れながら、健康づくりを推進していくこと、地域での健康づくり自主活動を推進していくこと。
	合計点	44
	今後の方向性	現状のまま継続

⑫	二次評価	
	今後の方向性	

令和元年度実施 色麻町事務事業評価シート

①	事務事業名		母子保健事業（健診）				
	担当課・係名		保健福祉課 保健係				
予算 科目	会計区分	一般会計	基本計 画体系	大分類	01 健やかに生きるチカラ		
	款	04 衛生費		中分類	02 健康づくりの推進		
	項	01 保健衛生費		小分類	01 保健活動の充実		
	目	02 予防費		重要推進プロジェクト該当の有無 <input type="checkbox"/>			
②	事業費の推移		H29予算	H29決算	H30予算	H30決算	R1予算
	総事業費（千円）		5,524	5,072	6,547	6,038	9,152
財源 内訳	国県支出金		0	15	0	30	0
	その他特定財源		0	0	0	0	0
	一般財源		5,524	5,057	6,547	6,008	9,152
※H29・H30予算は最終予算額。R1は9月補正後の額。							
③	対象（誰、何を対象にするのか）						
	町内在住の2ヶ月児、3～4ヶ月児、8～9ヶ月児、1歳6ヶ月児、2歳6ヶ月児、3歳児、妊婦、妊娠を希望する不妊治療を受けている者、新生児。						
④	目的・意図する成果（どのような成果をもたらしたいのか）						
	乳幼児の心身障害、その他疾病及び異常を早期に発見し、健全な発育・発達を目指し生活習慣の自立、虫歯予防、適切な栄養、その他育児に関する相談指導を行い、乳幼児の健康の保持増進を図る。母子保健法第13条の規定により、妊婦の健康診査を医療機関に委託して行い、妊婦の健康管理の向上を図ることを目的とする。 妊娠を希望する不妊治療対象者に対して治療費の助成を行うことで、少子化対策を行う。 新生児聴覚検査費用の助成を行い、聴覚異常の早期発見・早期療育を図る。						
⑤	事業概要						
	<ul style="list-style-type: none"> ●2ヶ月児健康診査(平成15年度より宮城県医師会委託) ●3～4ヶ月児(年間12回)身体測定、問診、内科診察、栄養育児相談 ●8～9ヶ月児(年間12回)身体測定、問診、内科診察、栄養育児相談 ●1歳6ヶ月児健康診査(年4回)身体測定、問診、内科診察、歯科講話、歯科診察、栄養育児相談 ●2歳6ヶ月児歯科健康診査(年4回)歯科診察、歯科講話、栄養育児相談 ●3歳児健康診査(年4回)身体測定、問診、内科診察、歯科講話、歯科診察、尿検査、耳目検査、栄養育児相談、心理相談(希望者) ●妊婦健康診査(宮城県医師会委託) ●新生児聴覚検査費助成(一人当たり5千円を上限=助成) ●特定不妊治療費助成(一人当たり20万円を上限に年間5件 平成28年度から) 						
⑥	事業を取り巻く状況の変化について						
	医師の単価等で増額される場合もあり得る。平成26年度より町の乳幼児健康診査の診察業務を公立加美病院の小児科へ委託。平成28年度から大崎市民病院小児科と公立加美病院小児科へ委託している。平成26年度より、特定不妊治療費助成を開始。平成26年度は、一人当たり10万円を上限に、年間3件の予算をとったが実績は4件である。特定不妊治療にかかる費用が高額であり、助成申請者が増加しているため、平成28年度より一人当たり20万円を上限とし、年間5件の予算をとった。平成30年度の申請者は4件である。						
⑦	根拠法令等（法律・条例・要綱等）						
	母子保健法						
⑧	事業の活動指標(事業の活動量を示す数値)						
	指標名			H28	H29	H30	
A	実施回数	単位：回	実績値	36	36	36	
			目標値	36	36	36	
定義	3～4ヶ月児、8～9ヶ月児、1歳6ヶ月児、2歳6ヶ月児歯科、3歳児健康診査を実施した回数。						
B		単位：	実績値	0	0	0	
			目標値	0	0	0	
定義							
⑨	事業の成果を測る指標(事業の目的がどの程度達成されたかを示す数値)						
	指標名			H28	H29	H30	
A	健診受診率	単位：%	実績値	95	95	95	
			目標値	100	100	100	
定義	3～4ヶ月児、8～9ヶ月児、1歳6ヶ月児、2歳6ヶ月児歯科、3歳児健康診査の受診率。						
B		単位：	実績値	0	0	0	
			目標値	0	0	0	
定義							

⑩ 目的妥当性の評価	
ア 町で行うべき事業である（民間や他の機関で実施する可能性）	5
イ 最も適切な方法で行われている	5
ウ 町民ニーズ及び今の社会情勢に合致している	5
評価の説明 点数 15	母子に関する健診は、母子保健法において町の業務となっている。 すこやかな成長発達、異常の早期発見早期対応のためにも健診は重要な役割を持つ。
有効性の評価	
ア 長期的な効果が期待できる	5
イ 目的を達成するために有効な事業である	5
ウ まちの将来像実現に有効な事業である	5
評価の説明 点数 15	母子の健康を守ることは、少子化対策や町の活性化につながる。
効率性の評価	
ア 経費は適切かつ最低限である	5
イ 他の類似事業等との連携・調整はできている	5
ウ 受益者負担は適正である	5
評価の説明 点数 15	妊婦健診と2ヶ月児健診に関しては、県とりまとめの上、県医師会と協議して実施。 その他の健診に関しては、医師、歯科医師に対する委託料がほとんどである。町の保健師・管理栄養士で対応し必要最低限といえる。
達成度の評価	
ア 事業の成果指標の目標値に対して実績は上がっている	5
評価の説明 点数 5	目標値に近づいている。今後も必要な健診はうけていただくように受診勧奨していきたい。

⑪	課長総括評価 引き続き、現状を維持しながら、受診率のを高められるように工夫しながら事業を展開する。 特に、町で見る最後の健診である3歳児健診の受診率100%を目指す。
合計点 50	
今後の方向性	現状のまま継続

⑫	二次評価
今後の方向性	

令和元年度実施 色麻町事務事業評価シート

①		事務事業名		母子保健事業（各種教室・相談）				
		担当課・係名		保健福祉課 保健係				
予算 科目	会計区分	一般会計		基本計 画体系	大分類	01 健やかに生きるチカラ		
	款	04 衛生費			中分類	02 健康づくりの推進		
	項	01 保健衛生費			小分類	01 保健活動の充実		
	目	02 予防費			重要推進プロジェクト該当の有無 <input type="checkbox"/>			
②		事業費の推移		H29予算	H29決算	H30予算	H30決算	R1予算
		総事業費（千円）		254	209	44	26	78
財源 内訳	国県支出金		0	0	0	0	0	
	その他特定財源		204	205	7	7	0	
	一般財源		50	4	37	19	78	
※H29・H30予算は最終予算額。R1は9月補正後の額。								
③		対象（誰、何を対象にするのか）						
		新生児～乳幼児、その両親、妊産婦						
④		目的・意図する成果（どのような成果をもたらしたいのか）						
		<ul style="list-style-type: none"> ・安心して子供を産み育てられる環境作り ・出産育児の知識が得られる。 ・困ったときに相談の出来る人（場所）がある。 						
⑤		事業概要						
		<ul style="list-style-type: none"> ●母子健康手帳交付時相談 ●こんにちは赤ちゃん訪問 ●1歳すくすくセミナー ●親子クッキング ●個別対応の充実（ハイリスク者の実態把握） 						
⑥		事業を取り巻く状況の変化について						
		<p>●少子化傾向である。産後うつが虐待に関係しているとのことで、虐待予防の観点から、こんにちは赤ちゃん事業として訪問を実施。 ●少子高齢化や核家族の進む中で、食生活の体験不足や生活習慣病の増加、孤食化などの問題から、親子で学ぶ機会を持つことが重要。 ●離乳食の進み具合の確認をする機会もっている。ひよこクッキングは参加者が減少傾向であったことから廃止とし、離乳食の調理実習を中心とした内容から、1歳児の成長発達、必要な生活習慣の獲得についての指導と離乳食の試食を行うものへと変更し、H29年度から1歳すくすくセミナーを開催している。</p>						
⑦		根拠法令等（法律・条例・要綱等）						
		母子保健法・児童福祉法 食育基本法						
⑧		事業の活動指標（事業の活動量を示す数値）						
		指標名		H28	H29	H30		
A	開催回数	単位：回	実績値	5	5	5		
			目標値	5	5	5		
定義		1歳すくすくセミナー（4回）、親子の料理教室（1回）の開催回数。						
B	訪問数	単位：人	実績値	52	38	48		
			目標値	0	0	0		
定義		こんにちは赤ちゃん訪問をした人数。						
⑨		事業の成果を測る指標（事業の目的がどの程度達成されたかを示す数値）						
		指標名		H28	H29	H30		
A	教室参加率	単位：%	実績値	39	76	79		
			目標値	50	80	80		
定義		1歳すくすくセミナーへの参加率。平成28年度の実績値はひよこクッキングへの参加率である。平成28年度の目標値はひよこクッキングのものである。						
B	訪問実施率	単位：%	実績値	97	98	100		
			目標値	100	100	100		
定義		こんにちは赤ちゃん訪問の実施率。ハイリスク妊産婦の把握も行っている。						

⑩ 目的妥当性の評価	
ア 町で行うべき事業である（民間や他の機関で実施する可能性）	5
イ 最も適切な方法で行われている	3
ウ 町民ニーズ及び今の社会情勢に合致している	5
評価の説明 点数 13	新生児訪問やハイリスク妊産婦の把握、食育については町が行う業務である。 ひよこクッキングを廃止して、1歳児の成長発達、必要な生活習慣の獲得についての指導と離乳食の試食を行うものへと変更し、新たな教室を1歳すくすくセミナーとして今年度から実施した。
有効性の評価	
ア 長期的な効果が期待できる	5
イ 目的を達成するために有効な事業である	5
ウ まちの将来像実現に有効な事業である	5
評価の説明 点数 15	児の発育や子育て方法の確認、支援に繋がっている。 ハイリスク妊産婦の把握割合が増しており、適切な支援を早期に行うことが可能である。
効率性の評価	
ア 経費は適切かつ最低限である	5
イ 他の類似事業等との連携・調整はできている	5
ウ 受益者負担は適正である	5
評価の説明 点数 15	経費は親子料理教室が主であり、参加費にて一部負担をしてもらっており受益者負担は適正である。
達成度の評価	
ア 事業の成果指標の目標値に対して実績は上がっている	4
評価の説明 点数 4	ひよこクッキングの参加者の割合が減少したことから、内容を調理中心から、1歳児の成長発達、必要な生活習慣の獲得についての指導と離乳食の試食を行うものへと変更し、1歳すくすくセミナーとしてH29年度から実施している。参加者は増加し、必要な支援に繋がられている。

⑪	課長総括評価 合計点 47 今後の方向性	ひよこクッキングについて町が行うべき事業であるが、参加者が減少している。内容を変更してより参加してもらえるような形へ教室の実施方法を変更する。 改善の上継続
---	----------------------------	---

⑫	二次評価 今後の方向性	
---	----------------	--

令和元年度実施 色麻町事務事業評価シート

①	事務事業名		精神保健事業				
	担当課・係名		保健福祉課 保健係				
	予算 科目	会計区分	一般会計	基本計 画体系	大分類	01 健やかに生きるチカラ	
		款	04 衛生費		中分類	02 健康づくりの推進	
項		01 保健衛生費	小分類		01 保健活動の充実		
目	02 予防費	重要推進プロジェクト該当の有無 <input type="checkbox"/>					
②	事業費の推移		H29予算	H29決算	H30予算	H30決算	R1予算
	総事業費（千円）		93	93	567	412	230
	財源 内訳	国県支出金	0	0	0	0	0
		その他特定財源	0	0	0	0	0
		一般財源	93	93	567	412	230
※H29・H30予算は最終予算額。R1は9月補正後の額。							
③	対象（誰、何を対象にするのか）						
町民に対する精神障害・こころの健康に関する知識の啓発を図る。							
④	目的・意図する成果（どのような成果をもたらしたいのか）						
<ul style="list-style-type: none"> ●精神障害を患っても、地域で安心して暮らしていける。地域で支えられる。 ●精神疾患を予防できる。 							
⑤	事業概要						
<ul style="list-style-type: none"> ●こころの相談窓口業務 ●精神疾患の正しい知識の普及 ●心の病に関する講演会 ●携わるスタッフ研修会 ●地域ネットワーク推進 ●個別対応の充実 							
⑥	事業を取り巻く状況の変化について						
こころの健康について関心が高まっている。自死を地域で防いで行くためにゲートキーパーの普及啓発等の自死対策が必要とされている。平成30年度地域自死対策計画策定が義務付けされ、計画が策定されている。							
⑦	根拠法令等（法律・条例・要綱等）						
精神保健福祉法							
⑧	事業の活動指標（事業の活動量を示す数値）						
指標名			H28	H29	H30		
A	こころの健康 づくり講演会	単位：回	実績値	1	1	1	
			目標値	1	1	1	
定義 研修会開催回数							
B	相談支援者研修会	単位：回	実績値	6	3	3	
			目標値	6	6	6	
定義 研修会開催回数							
⑨	事業の成果を測る指標（事業の目的がどの程度達成されたかを示す数値）						
指標名			H28	H29	H30		
A	参加者数	単位：人	実績値	73	66	64	
			目標値	70	70	70	
定義 こころの講演会参加人数							
B	参加者数	単位：人	実績値	208	35	31	
			目標値	200	60	60	
定義 相談支援者研修会参加人数 H29年度より研修会1回20人参加を3回を目標値としている。							

⑩ 目的妥当性の評価	
ア 町で行うべき事業である（民間や他の機関で実施する可能性）	4
イ 最も適切な方法で行われている	4
ウ 町民ニーズ及び今の社会情勢に合致している	4
評価の説明 点数 12	こころの健康の理解が増すことで、身近な人のうつや自死を防ぐ事へと繋がる事業である。
有効性の評価	
ア 長期的な効果が期待できる	4
イ 目的を達成するために有効な事業である	4
ウ まちの将来像実現に有効な事業である	4
評価の説明 点数 12	こころの健康の理解が増すことで、身近な人のうつや自死を防ぐ事へと繋がる事業である
効率性の評価	
ア 経費は適切かつ最低限である	4
イ 他の類似事業等との連携・調整はできている	4
ウ 受益者負担は適正である	5
評価の説明 点数 13	地域での相談役である民生委員会議に併せ、講演会を開催、地区のリーダー役である、区長・保健推進員・ヘルスマイト等の団体にも参加の声かけを実施しているが、今後は一般町民への参加を促していく
達成度の評価	
ア 事業の成果指標の目標値に対して実績は上がっている	4
評価の説明 点数 4	うつや自死は社会的にも大きな問題となっており、町民自ら自分の心の健康を保つ事の大切さや、心の病に関する理解を深め、精神障害をもっても地域で暮らせる町づくりが今後も必要であり、より多くの人々の精神障害への理解を深めるための普及啓発をすすめていく。他の相談機関との連携を取りながら、必要な方への支援が充分できるよう連絡調整を図っていく。

⑪	課長総括評価 参加者の反応、住民の感想等を取り入れながら、今後の事業の展開を図っていく事 こころの相談ができる窓口を広く周知し、必要な人が相談を受ける事ができるようにしていく事 合計点 41
今後の方向性	現状のまま継続

⑫	二次評価
今後の方向性	

令和元年度実施 色麻町事務事業評価シート

①	事務事業名		感染症予防事業				
	担当課・係名		保健福祉課 保健係				
	予算 科目	会計区分	一般会計	基本計 画体系	大分類	01 健やかに生きるチカラ	
		款	04 衛生費		中分類	02 健康づくりの推進	
項		01 保健衛生費	小分類		01 保健活動の充実		
目	02 予防費	重要推進プロジェクト該当の有無 <input type="checkbox"/>					
②	事業費の推移		H29予算	H29決算	H30予算	H30決算	R1予算
	総事業費（千円）		16,109	15,814	15,532	14,713	22,738
	財源 内訳	国県支出金	0	0	0	0	0
		その他特定財源	0	0	0	0	0
一般財源		16,109	15,814	15,532	14,713	22,738	
※H29・H30予算は最終予算額。R1は9月補正後の額。							
③	対象（誰、何を対象にするのか）						
感染症全般（全町民） 予防接種対象者（乳幼児、学童、生徒、高齢者）							
④	目的・意図する成果（どのような成果をもたらしたいのか）						
予防接種により町民全体の免疫水準を維持するため、接種の機会を安定的に確保する。また、接種により極めてまれに重篤な健康被害が発生することがあり得るといった事実を正確に伝え、町民の理解を得ることも重要である。							
⑤	事業概要						
各種定期・任意予防接種の実施。 副反応等相談支援、健康被害の救済。 感染症に関する正しい知識の啓発。							
⑥	事業を取り巻く状況の変化について						
平成22年度から勧奨再開された日本脳炎ワクチンの経過措置の継続により18歳への勧奨を実施。 子宮頸がんについては、平成25年6月に副反応の問題あり、積極的勧奨の差し控えとなっている。平成25年度1月～任意のロタウイルスワクチンの助成を開始。平成26年10月1日より高齢者肺炎球菌、水痘ワクチンが定期接種に追加。平成28年10月1日よりB型肝炎ワクチンが定期予接種となり、広域化接種の業務委託契約を締結する。							
⑦	根拠法令等（法律・条例・要綱等）						
予防接種法							
⑧	事業の活動指標（事業の活動量を示す数値）						
	指標名			H28	H29	H30	
A	接種率	単位： %	実績値	91	91	89	
			目標値	90	90	90	
定義	定期予防接種の接種率						
B		単位：	実績値	0	0	0	
			目標値	0	0	0	
定義							
⑨	事業の成果を測る指標（事業の目的がどの程度達成されたかを示す数値）						
	指標名			H28	H29	H30	
A	接種率	単位： %	実績値	91	91	89	
			目標値	90	90	90	
定義	定期予防接種の接種率						
B		単位：	実績値	0	0	0	
			目標値	0	0	0	
定義							

⑩ 目的妥当性の評価	
ア 町で行うべき事業である（民間や他の機関で実施する可能性）	5
イ 最も適切な方法で行われている	5
ウ 町民ニーズ及び今の社会情勢に合致している	5
評価の説明 点数 15	定期予防接種は、予防接種法において町の責務と定められている。 任意予防接種に関しても助成を行い、経済的負担の軽減と感染症の蔓延の予防に繋がっている。 定期予防接種と任意予防接種の違いや適切な時期に予防接種を実施できるように説明・指導していく必要がある。里帰り先での定期予防接種は、里帰り先へ依頼状を発行し、償還払いにて対応している。
有効性の評価	
ア 長期的な効果が期待できる	5
イ 目的を達成するために有効な事業である	5
ウ まちの将来像実現に有効な事業である	5
評価の説明 点数 15	ワクチンの効果は認められており、感染症予防に有効である。
効率性の評価	
ア 経費は適切かつ最低限である	5
イ 他の類似事業等との連携・調整はできている	5
ウ 受益者負担は適正である	5
評価の説明 点数 15	県医師会や郡医師会と協議のうえ接種委託料を定めている。
達成度の評価	
ア 事業の成果指標の目標値に対して実績は上がっている	5
評価の説明 点数 5	任意接種の定期接種化に伴い、予防接種の受け方など複雑になることで適正に予防接種が受けられないことがないよう普及啓発行っていく。更に接種率の向上を目指すことを踏まえ保健指導の徹底をしていく必要がある。

⑪	課長総括評価 町の責務としてやらなくてはいけないことである。接種率を向上させるように町民へ啓発していく。 合計点 50
今後の方向性	現状のまま継続

⑫	二次評価 今後の方向性
---	----------------

令和元年度実施 色麻町事務事業評価シート

①	事務事業名		献血推進事業				
	担当課・係名		保健福祉課 保健係				
	予算 科目	会計区分	一般会計	基本計 画体系	大分類	01 健やかに生きるチカラ	
		款	04 衛生費		中分類	02 健康づくりの推進	
項		01 保健衛生費	小分類		01 保健活動の充実		
	目	02 予防費	重要推進プロジェクト該当の有無 <input type="checkbox"/>				
②	事業費の推移		H29予算	H29決算	H30予算	H30決算	R1予算
	総事業費（千円）		105	105	105	104	105
	財源 内訳	国県支出金	35	35	30	34	30
		その他特定財源	0	0	0	0	0
		一般財源	70	70	75	70	75
※H29・H30予算は最終予算額。R1は9月補正後の額。							
③	対象（誰、何を対象にするのか）						
<p>16歳から69歳までの献血可能な町民。 ※16歳…200cc献血 ※最近の需要から、ほとんど400cc献血を行う方針である。（男性17～69歳、女性18～69歳、体重50kg以上の場合）</p>							
④	目的・意図する成果（どのような成果をもたらしたいのか）						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 県、町、日本赤十字社とが連携し必要な輸血用血液を確保する体制を確立する。 ・ 特に将来の献血を支える若年層に対し、献血普及啓発を図るなど新規献血者による献血基盤を拡大し、より安全な輸血用血液を推進するなどして町に定められた目標値を100%確保する。（安全な血液確保と安定供給と町民のボランティア意識を高める。） 							
⑤	事業概要						
<p>年5回実施 ①積水ハウス（株）東北工場（1回目） ②役場 ③加美農業高等学校 ④秋まつり ⑤積水ハウス（株）東北工場（2回目）</p>							
⑥	事業を取り巻く状況の変化について						
献血者の減少傾向							
⑦	根拠法令等（法律・条例・要綱等）						
安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律							
⑧	事業の活動指標（事業の活動量を示す数値）						
指標名			H28	H29	H30		
A	町内実施回数	単位：回	実績値	5	6	5	
			目標値	5	5	5	
定義							
B	献血協力者数	単位：人	実績値	189	218	189	
			目標値	150	150	150	
定義 献血受付者（採取不可含む）							
⑨	事業の成果を測る指標（事業の目的がどの程度達成されたかを示す数値）						
指標名			H28	H29	H30		
A	実施者の割合	単位：%	実績値	89	132	75	
			目標値	100	100	100	
定義 県が示す400ccの献血者の目標に対する実施者の割合							
B		単位：	実績値	0	0	0	
			目標値	0	0	0	
定義							

⑩ 目的妥当性の評価	
ア 町で行うべき事業である（民間や他の機関で実施する可能性）	4
イ 最も適切な方法で行われている	4
ウ 町民ニーズ及び今の社会情勢に合致している	3
評価の説明 点数 11	輸血用の血液は常に需要があり、安定した供給量の確保のために必要な事業である。
有効性の評価	
ア 長期的な効果が期待できる	4
イ 目的を達成するために有効な事業である	4
ウ まちの将来像実現に有効な事業である	3
評価の説明 点数 11	献血の普及啓発に必要な事業である。
効率性の評価	
ア 経費は適切かつ最低限である	4
イ 他の類似事業等との連携・調整はできている	4
ウ 受益者負担は適正である	5
評価の説明 点数 13	献血協力者への負担は最小限である。
達成度の評価	
ア 事業の成果指標の目標値に対して実績は上がっている	4
評価の説明 点数 4	県が示す400ccの献血者の目標は毎年変化する。H29年度は単純に受付者数が増えただけではなく、役場での献血が急ぎょ一回増えたことでこのような結果になっている。

⑪	課長総括評価 合計点 39 今後の方向性	献血の必要性、意義的にも大事な事業である。また、身近なボランティアであり自身の健康チェックにもつながるので、周知方法等を改善しながら取り組むこと。 改善の上継続
---	----------------------------	---

⑫	二次評価 今後の方向性	
---	----------------	--

令和元年度実施 色麻町事務事業評価シート

①	事務事業名		広域医療対策事業				
	担当課・係名		保健福祉課 保健係				
	予算 科目	会計区分	一般会計	基本計 画体系	大分類	01 健やかに生きるチカラ	
		款	04 衛生費		中分類	02 健康づくりの推進	
項		01 保健衛生費	小分類		01 保健活動の充実		
	目	02 予防費	重要推進プロジェクト該当の有無 <input type="checkbox"/>				
②	事業費の推移		H29予算	H29決算	H30予算	H30決算	R1予算
	総事業費（千円）		15,499	15,499	20,242	20,241	14,190
	財源 内訳	国県支出金	0	0	0	0	0
		その他特定財源	0	0	0	0	0
		一般財源	15,499	15,499	20,242	20,241	14,190
※H29・H30予算は最終予算額。R1は9月補正後の額。							
③	対象（誰、何を対象にするのか）						
	町民						
④	目的・意図する成果(どのような成果をもたらしたいのか)						
	地域住民の医療の確保を図り地域住民が安心して生活できるようにすることを目的とする。						
⑤	事業概要						
	<ul style="list-style-type: none"> ●委託料 在宅当番医制事業 2,171,000円 昼間分事業費 加美郡大崎市医師会 負担額人口割14.92% ●負担金 大崎地区病院群輪番制事業 1,347,000円 古川地区 9時から22時 古川地区以外 9時から翌7時30分 負担額人口割3.51% 大崎市民病院救命救急センター運営費 8,479,000円 大崎市夜間急患センター(平成28年度から) 2,008,000円 協定書第2、3条に基づく負担額 大崎地区医療対策委員会事務費 32,000円、 看護師養成所運営費 125,000円、ハンセン病予防協会 5,000円 						
⑥	事業を取り巻く状況の変化について						
	<ul style="list-style-type: none"> ・平日夜間の緊急対応については、大崎市以外は費用の支払いをしていないため、受け入れがよくない状況にある。 ・医師の高齢化などに伴い、平成24年10月より平日夜間診療が22時までとなった。また、平成27年4月より休日夜間も22時までとなっている。 ・平成28年度より大崎市夜間急患センター開設 						
⑦	根拠法令等（法律・条例・要綱等）						
⑧	事業の活動指標(事業の活動量を示す数値)						
	指 標 名		H28	H29	H30		
A	単位：	実績値	0	0	0		
		目標値	0	0	0		
定義							
B	単位：	実績値	0	0	0		
		目標値	0	0	0		
定義							
⑨	事業の成果を測る指標(事業の目的がどの程度達成されたかを示す数値)						
	指 標 名		H28	H29	H30		
A	単位：	実績値	0	0	0		
		目標値	0	0	0		
定義							
B	単位：	実績値	0	0	0		
		目標値	0	0	0		
定義							

⑩ 目的妥当性の評価	
ア 町で行うべき事業である（民間や他の機関で実施する可能性）	3
イ 最も適切な方法で行われている	3
ウ 町民ニーズ及び今の社会情勢に合致している	4
評価の説明 在宅当番医制、病院群輪番制事業、大崎市民病院救命救急センター運営事業（登米栗原大崎組長会議による協定）大崎市夜間急患センター運営事業（登米栗原大崎組長会議による協定）平成29年度はコンビニ受診を防ぐために、広報誌や全戸チラシによる啓発を実施 点数 10	
有効性の評価	
ア 長期的な効果が期待できる	4
イ 目的を達成するために有効な事業である	4
ウ まちの将来像実現に有効な事業である	4
評価の説明 在宅当番医制、病院群輪番制事業、大崎市民病院救命救急センター運営事業（登米栗原大崎組長会議による協定）大崎市夜間急患センター運営事業（登米栗原大崎組長会議による協定）公立加美病院とともに町民の安心につながると考える。 点数 12	
効率性の評価	
ア 経費は適切かつ最低限である	4
イ 他の類似事業等との連携・調整はできている	4
ウ 受益者負担は適正である	4
評価の説明 経費は年々増加している。 在宅当番医制、病院群輪番制事業、大崎市民病院救命救急センター運営事業（登米栗原大崎組長会議による協定）大崎市夜間急患センター運営事業（登米栗原大崎組長会議による協定）前年度夜間急患センター事業特別会計の決算額及び患者数の実績に基づく 点数 12	
達成度の評価	
ア 事業の成果指標の目標値に対して実績は上がっている	4
評価の説明 受け皿としての機能は果たしている。 点数 4	

⑪	課長総括評価 本当に医療を必要とする人が確実に受診出来るために、コンビニ受診等を無くす指導をしていく。 合計点 38 今後の方向性 <input type="text" value="現状のまま継続"/>
---	---

⑫	二次評価 今後の方向性 <input type="text"/>
---	-------------------------------------

令和元年度実施 色麻町事務事業評価シート

①	事務事業名		各種検診事業				
	担当課・係名		保健福祉課 保健係				
	予算 科目	会計区分	一般会計	基本計 画体系	大分類	01 健やかに生きるチカラ	
		款	04 衛生費		中分類	02 健康づくりの推進	
項		01 保健衛生費	小分類		01 保健活動の充実		
	目	02 予防費	重要推進プロジェクト該当の有無 <input type="checkbox"/>				
②	事業費の推移		H29予算	H29決算	H30予算	H30決算	R1予算
	総事業費（千円）		17,538	17,515	17,695	17,576	19,067
	財源 内訳	国県支出金	0	0	0	0	0
		その他特定財源	2,620	2,692	2,477	2,694	2,770
一般財源		14,918	14,823	15,218	14,882	16,297	
※H29・H30予算は最終予算額。R1は9月補正後の額。							
③	対象（誰、何を対象にするのか）						
胃がん検診(35歳以上) 大腸がん検診(40歳以上) 子宮頸がん検診(20歳以上) 乳がん検診(30歳以上) 前立腺がん検診(50～69歳) 結核肺がん検診(40歳以上) 骨粗鬆症検診(30～70歳女性) 成人歯科健診(40・45・50・55・60・65・70歳) 一般健康診査(19～39歳の町民、生活保護受給者) 肝炎ウイルス検査(40. 45. 50. 55. 60. 65. 70歳)							
④	目的・意図する成果(どのような成果をもたらしたいのか)						
検診受診者が結果に伴い適切な健康管理が出来るとともに、疾病の早期発見、対応により治療が長期にわたることを未然に防ぐ。自分の身体状況を客観的に知り、良い健康行動を実践することにより、健康寿命を延伸できる。壮年期からの健康づくりの動機付け、生活習慣病予防、疾病の早期発見、必要な方は保健指導が受けられる。							
⑤	事業概要						
<ul style="list-style-type: none"> 各種がん検診、精密検診対象者への受診勧奨、各種健康診査の実施 6月に複合検診（国保特定、一般、後期高齢健診、胃がん、大腸がん、結核肺がん、肝炎ウイルス、前立腺がん検診）を実施。土日・夜間を含めた6日間を実施。9月には未受診者検診として（国保特定、胃がん、結核肺がん検診）を土曜日に1日実施。 5月に乳がん検診を3日間、8月に子宮頸がん・骨粗しょう症検診を3日間実施。女性の未受診者検診として10月の土曜日に1日実施。 成人歯科検診は6月～12月に加美郡内の歯科医院で実施。 							
⑥	事業を取り巻く状況の変化について						
受診者数は横ばいで推移している。							
⑦	根拠法令等（法律・条例・要綱等）						
がん対策基本法 健康増進法							
⑧	事業の活動指標(事業の活動量を示す数値)						
	指標名			H28	H29	H30	
A	各種がん検診等の 総実施回数	単位：回	実績値	71	60	63	
			目標値	71	70	63	
定義	複合検診、乳がん検診、子宮がん検診、各種未受診者検診回数※夜間検診分も1回と計上 ※H29年度、乳がん検診の委託先を変更し、受診方法が変わったため日数が減少した。						
B		単位：	実績値	0	0	0	
			目標値	0	0	0	
定義							
⑨	事業の成果を測る指標(事業の目的がどの程度達成されたかを示す数値)						
	指標名			H28	H29	H30	
A	全検診受診者 延べ人数	単位：人	実績値	5,136	5,053	4,973	
			目標値	0	0	0	
定義	町で実施した全検診の受診延べ人数(喀痰検査含む)						
B		単位：	実績値	0	0	0	
			目標値	0	0	0	
定義							

⑩ 目的妥当性の評価	
ア 町で行うべき事業である（民間や他の機関で実施する可能性）	5
イ 最も適切な方法で行われている	4
ウ 町民ニーズ及び今の社会情勢に合致している	4
評価の説明 点数 13	病気の早期発見・早期治療により、重症化と医療費の高騰を防ぐことが可能。 検診期間を複数日設けることにより、受けやすさの向上を図っている。
有効性の評価	
ア 長期的な効果が期待できる	5
イ 目的を達成するために有効な事業である	5
ウ まちの将来像実現に有効な事業である	5
評価の説明 点数 15	市町村で実施する科学的根拠に基づいたがん検診事業を実施している。
効率性の評価	
ア 経費は適切かつ最低限である	5
イ 他の類似事業等との連携・調整はできている	5
ウ 受益者負担は適正である	5
評価の説明 点数 15	複合検診として、結核・肺がん・健康診査・一部のがん検診が一緒に受けられるよう実施
達成度の評価	
ア 事業の成果指標の目標値に対して実績は上がっている	5
評価の説明 点数 5	夜間検診、未受診者検診、土日検診の導入により、受診対象者が受けやすい体制整備を図り受診者の増加を目指しているが受診者の固定化もみられている。検診未受診者対策が今後も必要。

⑪	課長総括評価 町民の健康増進については、医療抑制により、財政健全化にもつながり、町民の福祉向上にとって重要な事業である。そのために、町民のニーズを把握し、常に改善を行い取り組む。 合計点 48 今後の方向性 <input type="text" value="改善の上継続"/>
---	--

⑫	二次評価 今後の方向性 <input type="text"/>
---	-------------------------------------

令和元年度実施 色麻町事務事業評価シート

①	事務事業名		地区組織事業				
	担当課・係名		保健福祉課 保健係				
	予算 科目	会計区分	一般会計	基本計 画体系	大分類	01 健やかに生きるチカラ	
		款	04 衛生費		中分類	02 健康づくりの推進	
項		01 保健衛生費	小分類		01 保健活動の充実		
目	02 予防費	重要推進プロジェクト該当の有無 <input checked="" type="checkbox"/>					
②	事業費の推移		H29予算	H29決算	H30予算	H30決算	R1予算
	総事業費（千円）		1,237	1,225	1,115	1,052	1,259
	財源 内訳	国県支出金	0	0	0	0	0
		その他特定財源	100	100	0	0	0
		一般財源	1,137	1,125	1,115	1,052	1,259
※H29・H30予算は最終予算額。R1は9月補正後の額。							
③	対象（誰、何を対象にするのか）						
保健推進員（町長委嘱）、健康増進支援グループ（ヘルスマイト）							
④	目的・意図する成果（どのような成果をもたらしたいのか）						
地域住民が健康で生きがいを持ち、やすらぎのある暮らしができ、住み良い地域社会を築くことができるよう、地域における健康づくりの中核的な役割を担い、地域住民の健康と福祉の向上を図る。							
⑤	事業概要						
保健推進員研修会 健康増進支援グループ（ヘルスマイト）研修会							
⑥	事業を取り巻く状況の変化について						
働きながら推進員の役を受けている方もおり、健診の配布物の負担が多くなってきている。							
⑦	根拠法令等（法律・条例・要綱等）						
色麻町保健推進員設置規程（平成8年色麻町訓令第3号）							
⑧	事業の活動指標（事業の活動量を示す数値）						
	指標名			H28	H29	H30	
A	保健推進員 研修会開催回数	単位：回	実績値	11	12	12	
			目標値	11	11	11	
定義							
B	ヘルスマイト 研修会開催回数	単位：回	実績値	15	12	12	
			目標値	15	15	15	
定義							
⑨	事業の成果を測る指標（事業の目的がどの程度達成されたかを示す数値）						
	指標名			H28	H29	H30	
A	保健推進員研修会 参加率	単位：%	実績値	58	62	67	
			目標値	60	60	60	
定義							
B	ヘルスマイト支援 事業回数	単位：回	実績値	23	23	25	
			目標値	30	30	30	
定義 子育て支援センターおやつ作り14回・おやこの食育教室2回・男性の料理教室2回・加美農業高校伝統料理講習会1回・複合検診時お茶サービス6回							

⑩ 目的妥当性の評価	
ア 町で行うべき事業である（民間や他の機関で実施する可能性）	5
イ 最も適切な方法で行われている	4
ウ 町民ニーズ及び今の社会情勢に合致している	5
評価の説明 点数 14	町の保健事業への協力、地区への啓発普及を行うためには、資質を向上するための研修会が必要であり、町が行うべき事業である。
有効性の評価	
ア 長期的な効果が期待できる	5
イ 目的を達成するために有効な事業である	4
ウ まちの将来像実現に有効な事業である	4
評価の説明 点数 13	習得した知識を啓発普及する効果は大きい。
効率性の評価	
ア 経費は適切かつ最低限である	5
イ 他の類似事業等との連携・調整はできている	4
ウ 受益者負担は適正である	4
評価の説明 点数 13	保健推進員の調理実習時材料代等の受益者負担は適正と言える。 ヘルスメイトに関しては、年会費・補助金内で活動を実施している。
達成度の評価	
ア 事業の成果指標の目標値に対して実績は上がっている	5
評価の説明 点数 5	日々の活動や保健福祉センターまつり等を通して、積極的に地域への啓発普及活動を行っている。

⑪	課長総括評価 合計点 45 今後の方向性	地区組織の活躍は今後の町づくりを担っている。やりがいや達成感を得られるよう最大限の支援をしていく。 改善の上継続
---	----------------------------	---

⑫	二次評価 今後の方向性	
---	----------------	--

令和元年度実施 色麻町事務事業評価シート

①	事務事業名		地域活動支援センター事業				
	担当課・係名		保健福祉課 保健係				
予算 科目	会計区分	一般会計	基本計 画体系	大分類	01 健やかに生きるチカラ		
	款	04 衛生費		中分類	05 地域福祉等の充実		
	項	01 保健衛生費		小分類	01 障害者福祉の充実		
	目	06 地域活動支援センター費		重要推進プロジェクト該当の有無 <input type="checkbox"/>			
②	事業費の推移		H29予算	H29決算	H30予算	H30決算	R1予算
	総事業費（千円）		5,671	5,594	7,021	7,020	7,160
財源 内訳	国県支出金		0	0	0	0	0
	その他特定財源		50	396	513	579	534
	一般財源		5,621	5,198	6,508	6,441	6,626
※H29・H30予算は最終予算額。R1は9月補正後の額。							
③	対象（誰、何を対象にするのか）						
	心身に障害を持つ自宅療養者						
④	目的・意図する成果(どのような成果をもたらしたいのか)						
	<ul style="list-style-type: none"> 再発予防 自身が望む社会復帰に向けての訓練の場 						
⑤	事業概要						
	<ul style="list-style-type: none"> 手工芸品作り 農作業 外部販売 町まつりへ参加 レクリエーション等 						
⑥	事業を取り巻く状況の変化について						
	<ul style="list-style-type: none"> ホーム開設後10数年が経ち、活動の成果で就労できた方・就労B施設へ通う方が出てきて いる。しかし、なかなか成長がみられず足踏みしている方の指導が課題となっている。 在宅療養中でなかなか外へむかない方へのアプローチが十分にできていない。 平成25年度地域活動センターへの移行となった。指導員が定着しないため、その対策が必要である。 平成29年10月より色麻町社会福祉協議会による指定管理事業所の運営となっている。 						
⑦	根拠法令等（法律・条例・要綱等）						
	障害者総合支援法						
⑧	事業の活動指標(事業の活動量を示す数値)						
	指標名			H28	H29	H30	
A	活動日数	単位：日	実績値	242	245	244	
			目標値	242	245	244	
定義		年間稼働日数					
B	延べ利用者数	単位：人	実績値	1,138	1,628	1,345	
			目標値	920	930	940	
定義		精神・知的障害者等の延べ利用者数（一般相談者含む）					
⑨	事業の成果を測る指標(事業の目的がどの程度達成されたかを示す数値)						
	指標名			H28	H29	H30	
A	新規利用者数	単位：人	実績値	1	1	1	
			目標値	1	1	1	
定義							
B	活動支援センター 卒業者数	単位：人	実績値	1	0	0	
			目標値	1	1	1	
定義		障害福祉サービスや一般就労に結びついた方					

⑩ 目的妥当性の評価	
ア 町で行うべき事業である（民間や他の機関で実施する可能性）	4
イ 最も適切な方法で行われている	3
ウ 町民ニーズ及び今の社会情勢に合致している	4
評価の説明 点数 11	・平成29年10月より色麻町社会福祉協議会による指定管理事業所の運営となり、より細やかな支援ができる体制づくりを目指している。指定管理事業となり冬季間など今まで定期的な利用ができなかった方も定期利用が可能となった。
有効性の評価	
ア 長期的な効果が期待できる	3
イ 目的を達成するために有効な事業である	3
ウ まちの将来像実現に有効な事業である	3
評価の説明 点数 9	障害福祉の拠点としての機能を兼ね備え、さらに発展させる必要がある。
効率性の評価	
ア 経費は適切かつ最低限である	3
イ 他の類似事業等との連携・調整はできている	3
ウ 受益者負担は適正である	5
評価の説明 点数 11	指定管理となり、費用は増加している。自立支援を受けていない方や、現況の制度の利用に該当しないがサービスが必要とされる方の受け皿として利用が可能となっている。
達成度の評価	
ア 事業の成果指標の目標値に対して実績は上がっている	3
評価の説明 点数 3	地域に開かれた活動支援センターとしての普及が必要 新規の利用者、利用者中の就労移行者を増やしていく必要がある。

⑪	課長総括評価	家から出られない人に対する支援、利用者を就労につなげられるような支援をしていく。
	合計点 34	
	今後の方向性	改善の上継続

⑫	二次評価	
	今後の方向性	